

CES 2015 報告

CES 2015 Report

報告者 日本カメラ博物館 運営委員 市川泰憲

Author JCII Camera Museum Steering committee member

Yasunori ICHIKAWA

■ CES における PMA ショー ■

アメリカ・ラスベガスで、2015 年 1 月 6 日（火曜日）から 10 日（土曜日）の 5 日間にわたって「CES (Consumer Electronics Show)」が開かれた。

会場は、Tech East: Las Vegas Convention and World Trade Center (LVCC), Westgate Las Vegas, Renaissance Las Vegas, Tech West: Encore at Wynn, Wynn Las Vegas, Sands Expo, The Venetian, The Palazzo などに大きく分けられ、ラスベガスで開かれる見本市では最大級を誇る。CES の主催団体は CEA (Consumer Electronics Association) であり、家電業界のショーである。

2012 ～ 14 年まで “PMA@CES” という形でショーは開催されてきた。そして、このレポートも「PMA@CES 報告」としてきた。PMA つまりアメリカの写真業界団体である Photo Marketing Association が、CES のなかでショーを開くということだ。PMA は 1924 年設立の歴史ある団体で、過去 2010 年までは写真を主としたショーを単独で開いてきた。

2015 年は、CES のなかに “Digital Imaging/Photography” というコーナーが設けられたが、現実にはすべてのカメラメーカーが CES コーナーに出展しており、PMA コーナーの出展リストを見渡すと、そこに参加しているのが PMA に関係する写真関連の企業かどうかはきわめて微妙だ。

また例年だと、CES のオープニング当日 PMA 独自でテープカットなどが行われてきたが、今年はなかった。そこで何が起きているかわからないが、全体的に CES のなかで、PMA



Digital Imaging/Photography を紹介した PMA Web Site のヘッダー



左はゲームのコーナー、右が PMA の Digital Imaging/Photography のコーナー

の存在が希薄になってきた感じは否定できない事実だ。そこでこの報告も、今回タイトルは CES だけとさせていただいた。

■ 各社の展示から ■

CES に出展している業界関連企業は多数ある。それも、日本だけではなく海外の同業他社はどうかというのを見るのが本来だと思う。ただ、あまりにも出展企業数が多いだけにすべてを見渡すことは不可能だが、なるべく幅広く見ることにした。

■ キヤノン

キヤノンは、昨年 2014 年はカンノンから 80 周年、EOS シリーズ誕生から 30 周年とさ



キヤノンConnect Station CS100 のコーナー



キヤノンConnect Station CS100



キヤノンはインクジェットプリンターの新製品を展示

れていたが、9 月に開催されたフォトキナではEOS7DMark IIが発表されたが、これといった新製品はなかった。

そこでCES での新製品発表も一部には期待されたが、結局、新製品の登場は2 月12 日から横浜で開催される「CP + 2015」に持ち越されたことになる。それでも、純正バッテリーチャージャーの安全性、画像のサーバー兼ターミナルとして撮影した画像用のConnect Station CS100 などを発表していたが、注目



ニコン D5500 と AF-S ニッコール 300mm F4E PF ED VR



ニコン D750 を 48 台使った 360° アクション動画の撮影



360° 撮影の動画は大型ディスプレイで表示され、撮影された人にもデータはメールで配信される

度はいまひとつといったところである。

■ ニコン

ニコンは、静かに2 つの新製品を出していた。1 つは背面液晶が自在に動く APS-C タイプの小型・軽量のデジタル一眼レフ「ニコン D5500」で、もう1 つは交換レンズ「AF-S ニッコール 300mm F4E PF ED VR」だ。このレンズはキヤノンでいう D0 レンズであり、いわゆる回折格子光学系のレンズで、小型・軽量で色収差の発生が少ないのを特徴としてい



ニコンブースの受付



リコーはペンタックスとリコーブランドのカメラを展示



リコーの試作一眼レフ展示。名称・仕様は未公開



リコーシータ2のアプリケーションソフトはオープンなので、応用例を開示している開発陣

るが、ニコンの交換レンズとしては初の商品である。

ニコンブースの構成としては商品の陳列法、プロが撮影のノウハウを話すステージなどといつも通りといった感じだったが、ブース入り口脇に設けられた特設のコーナーでは360°円周に配置された48台のニコンD750を使って、一度のシャッターリリースで中央に位置した人間のアクションを誇張した動きの動画として映像を得られるというものだが、人気が高く撮影希望者がいつも行列ができていた。

■リコー

リコーは、一眼レフカメラ2台、交換レンズ2本などの試作機やセンサーシェイク方式の多画素技術を参考展示していた。どちらも商品名はつけられておらず、無名の一眼レフはAPS-Cのモデルで、また交換レンズ2本はやや大振りなのが気になった。

いずれにしても、ここ数年の傾向として、

ペンタックスブランドのカラーカメラを大量に展示するといった手法を踏襲している。

このほかりコーは、Digital Imaging/Photographyのコーナーに同社の360°全天球イメージ撮影カメラ「シータ2」の用途開発に特化させた小さなブースを出していた。聞くところによると、シータの開発部隊が独自に出したブースだそうで、シータの2型からアプリケーションソフトがオープンになったことにより、サードパーティーに応用範囲を見てもらおうというものだそうだ。

■ソニー

家電メーカーのなかで、最もカメラの展示に力を入れているのはソニーだという感じだ。今回のタイミングでは新製品はなく、基本的には2014年9月のフォトキナ時の新製品をメインにしたということで、これといった目立った商品はなかった。

ただ、αシリーズカメラシステムの展示に加え、フォトキナ以来交換レンズの拡充



ソニーのブース。この展示からソニーにとってはカメラ分野も大切な部門であることがわかる



ソニーαマウントの交換レンズコーナー



無人マルチコプター（ドローン）に搭載のα7



車、子供、犬につけられたアクションカメラ

は当面の課題であり、それらの展示に加え、無人マルチコプター（ドローン）に搭載のα7、PC タブレットで操作するレンズスタイルカメラ、子供のヘルメットや腕にウェアラブル（アクション）カメラ、犬の首輪にウェアラブル、車のボディにウェアラブルカメラ、4K ウェアラブル（アクション）カメラという形で撮影の可能性を提示していたが、

実際このあたりの撮影技法は、スチルよりムービーのほうが有効だと考えられる。

■パナソニック

家電メーカーであるパナソニックの展示には、カメラの展示はさほど広いとは感じない。それでもルミックスGH、GMシリーズの展示に加え、4K フォトという考えを前面に打ち出している。



パナソニックルミックスのコーナー



パナソニック 4K ワールド



パナソニックはルミックス GH4 のムービーからスチルの切り出し「4K フォト」を提案



カシオはエクシリム EX-FR10 と時計 G ショックを展示

これは4Kの画素数があれば、動画から800万画素の静止画が切り出せるというもので、ミラーレス一眼のGH4を中心に用途を展開していた。このほか、4Kワールドと称してカメラの展開、さらには8Kモニターの展示などが入っていた。

■カシオ

昨年2014はカシオブースの出展はあったものの、時計Gショックの展示をしても、カメラの展示はなかった。タイミング的には業界全体でコンパクトデジタルカメラがスマートフォンに押されての不調が伝えられていた時期でもあり、その後のカシオの動きは注目されていた。今年は自分撮りのカメラ「EXILIM EX-FR10」の展示があった。

会場内は、Gショックなどの時計部門とカメラ部門に分かれていたが、そのカメラ部門もカメラそのものの販売部隊と、エクシリム EX-FR10のAPPを利用してもらおうという開発部隊とに分かれていた。



サムソンの液晶ディスプレイコーナー



サムソンの技術力を示すと展示された300mmF2.8の超望遠レンズ。見たときは一瞬他社のレンズが付いていると錯覚

■サムスン

サムスは正式にはサムスン電子であり、スマートフォン、タブレットPCなどのシェアではアップルと首位を争うほどの地位であるが、カメラでは昨年のフォトキナにて「NX-1」という28MP、APS-C判裏面照射型CMOSのミラーレス機を発表したが、この時期までには新製品は発表されてない。いずれにしても9月フォトキナ、1月CESというタイミングは間が開いていないということでは、日本のカメラメーカーも同じだ。

■ポラロイド

ポラロイドはもともと2008年にアメリカで倒産しているが、このCES、フォトキナではブランド権を得たSAKARというアメリカの会社が積極的にポラロイドブランドの新商品を独自に設けたポラロイドブースで、発表してきた。

当初は、いかに旧ポラロイド社を踏襲しているかを印象付けるために、ドクターラ



ポラロイドはアクションカメラ「キューブ」をデモ



ポラロイドらしくプリンターを組込んだデジタルカメラ



ポラロイドブランドはカメラ関係だけではない

ンドが最初に商品化した偏光の軍用ゴーグル、ロールタイプの初期型ポラロイドカメラ、ポラロイドSX-70カメラなど、歴史的なポラロイド製品を並べるなど、ポラロイドブランドがいかに歴史あるものかということアピールする展示方法をとっていたが、この時期からは新しいポラロイドブランドが定着したということだろうか、歴史的な旧製品は展示されなくなった。



コダックブランドのコンシューマー製品が集合といった感じのコダックブース。SAKAR がかつて開発展示していた、コダック名の交換レンズ、ストロボ、三脚などはない



コダックのアクションカメラPIXPRO SP360 はすでに日本でもマスプロから発売されている

基本的に展示はコンパクトデジタルカメラやデジタルカメラにZink方式のプリンターを組込んだもの、小型のアクションカメラ「キューブ」などがメインとなっており、タブレットPCからレンズ交換式のミラーレスカメラなどを筆頭とした当初のような幅広い商品展開は抑えられているような印象を受けた。

■コダック

このCESの会場でもうひとつ静かに変化があったのがコダックである。コダックは2013年にコンシューマー関連商品のコダックブランドの使用権をJK Imagingに売り、自らは産業材料を扱うコダック・アラリスを設立させていた。今回は、コダックというブースがPMAのコーナーにあった。

取扱品目は、アクションカメラ、インクジェットペーパー、SDカードなどの記憶媒体等々である。当初は、SAKARか、JKイメージングかと考えていたが、消耗品のインクジェットペーパーを扱っていたのが不思議であった。会期後半になり、コダック・アラ



JK イメージングの商談室がPMA コーナーにあった



GoPro のブース



SAKAR のブースにはVivitar はあっても、昨年まであったコダックブランドの商品展示は一切なかった



GoPro はタイムラプスビデオ、静止画写真などアクションカメラのさまざまな用途をアピール

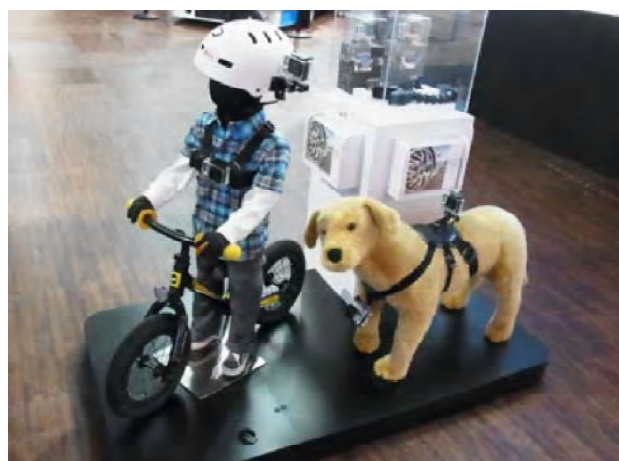
リス ジャパン社長の飯島氏からの情報によると、コダック社がコンシューマー事業部門を2015年1月1日付で発足させたというのだ。つまりその第一弾が、CESでのコダックブースの設置だということになる。

昨年9月のフォトキナでは、コダック製品はSAKARのブースに展示されていたのが、まったく消えてしまった。結局、コダックブランドを買ったSAKARは、コダックブランドで作ったコンシューマー製品をコダックに売ったということになるのだろうか、コダックというブランドの偉大さは、コダック社が一番知っているというわけだ。

■カメラの周辺で■

■ GoPro

アクションカメラの雄として彗星の如く2012年ごろに登場したGoProは、さまざまな場面と用途で伸ばしており、日本でもCP+2014に初出展して、その勢いを見せつけ



GoPro もソニーも考えることは同じ。犬の背中にカメラを付けると犬の頭が写ってしまうのではないだろうか

ている。Nicolas Woodmanがアメリカのシリコンバレーで起業したというが、2002年にコンセプトを立てたのが、2015年には純資産価値は13億ドルにもなったという。

しかし、今回のCES会場を見て回って驚いたのは、名称、機能ともGoProまがいのアクションカメラが多数出展されていたことだ。これはGoProそのものが製造に特別な技術を



屋外広告も大々的なクアルコムブースへの誘い



各社タブレットPC、スマホにも使われているクアルコム

必要とするものではないために、類似品が短期間の間に育ってしまうという現実だ。

それでも4K 動画、写真、タイムラプスビデオなどと用途をさまざまなところに展開して見せているが、子供、動物、車、ドローンなど、ありとあらゆる考えられる所にカメラを配置しての普及を促しているが、今後その勢いをどこまで維持できるかは謎である。

■クアルコム

今回は、カメラに直接関係する企業が少なかったために、周辺技術の企業にも目を向けることができたのは大きな収穫だった。クアルコムの製品はとりわけ、一部のカメラ、ウェアラブルカメラ、スマートフォン、タブレットPC、果ては、車などにも多用されているプロセッサがその基のようだ。

少し覗いた範囲では、ソニーのPC タブレットであるエクスペリア、ウェアラブルカメラなどに搭載されているのが実物展示でわかる。変わったところでは、フォトキナ



ソニーのウェアラブルカメラとPC タブレットにはクアルコムのプロセッサが使われている



撮影後ピント位置を変えられるという最新画像入力デバイスの「ライトロ・イルム」にもクアルコムのプロセッサが使われている

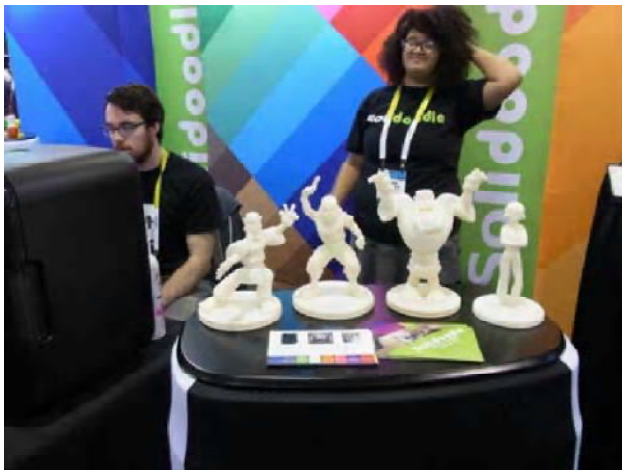


車のプロセッサもクアルコム

で発表された撮影後にピント位置を変えられるという「ライトロ・イルム」カメラもクアルコムのプロセッサを使っている。もっともクアルコムのプロセッサを必ずしも使わなくてはならないということはないようで、使用するかしないかはそれぞれの企業の判断によるものだと思う。

■その他の気になる分野■

CES はその名前の示すようにコンシューマー向けのエレクトロニクスショーであることには間違いない。しかし、その分野はあまりにも多岐にわたっているためにすべて



3D プリンターのコーナーにて



出力中の 3D プリンター

を見渡すのは不可能だ。それでも、いくつか気になる技術を注目してみた。

■ 3D プリンター

まず注目したのは3D プリンターだ。当然のこととして3D プリンターのコーナーは明確に分けられてあるのだが、展示場所がおもしろい。3D プリンターそのものはいわゆる先端技術とされているのだが、CES の会場では、コンベンションセンターとは別の Sands Expo というコンベンションホールで開かれていた。コーナーとしては同じフロアの近隣には「Health & Wellness」、「Fitness & Technology」、「Smart Home」、「Sensors」、「Robotics」、「Lifelong Tech」、「Wearables」、「Family & technology」、「Kids & Technology」等があるが、全般的に細かいコマ割りのブースが多い。

実際 3D プリンターのコーナーを見て歩くと、さまざまなものを実演プリントしているが、小型の人形のようなものをプリントし



このようなワンピースの製作にも応用できる (3D プリンターコーナーにて)



LG 電子の 4K ディスプレーによる 3D 映像のコーナー

ているのが多く、私の理解不足もあるだろうが、いわゆるハイテク感には乏しい。日本でもこの時期には雑誌を連続して買っていけば、3D プリンターを自作できるというような広告を見たことがあるが、どのような精度のものが組み立てられるかわからない。

■ 3D 映像

わずか3年ほど前には、各社が競って参入していたのが、3D 映像の世界であるが、今年はすっかりと鳴りを潜めてしまった。唯一、昨年もコンベンションセンターのセントラルに大きく陣取る韓国 LG 電子は、前面の超大型スクリーンによる 3D 映像は有機液晶のディスプレイ展示に切り替わったが、それでも大型の 4K ディスプレーによる 3D 映像の展示を行っていたのは、企業における技術に対する執念といったものを感じた。

■ 自動車

CES における大きなスペースを割いているゾーンとしては、自動車産業分野がある。日



日産の燃料電池のコーナー



メルセデスベンツ



三菱電機のコンセプトカー



フォルクスワーゲン



東芝のコーナーで。㊤鏡の前に立つと仮想の洋服を着ることができる。㊦演奏と歌に合わせて口を動かし手拍子をとるアンドロイド0Sで制御された人形。㊧東芝メガネ。メガネをかけると右上に必要な情報がディスプレイされる



ゴーグルをつけて何やら3Dバーチャルの世界を体験（インテルのブースにて）。
※このような、ゴーグルをつけて映像を体験できる展示は、今回のCESでは随所に見ることができた



ゴーグルをつけて台の上を走り回り、突如として振り向き銃を撃つ（ゲームのコーナーにて）



ビデオディスプレイ分野で、シャープの AQUOS 4K ディスプレーの画素分割技術がイノベーションとして評価された



イノベーションコーナーで配布された冊子。写真はGoProのFounder 兼CEO 兼 Chairman の Nicolas Woodman

本からは、トヨタ、マツダなどの車メーカーに加え、デンソー、JVC ケンウッド、パイオニアなどの関連メーカーもブースを出している。海外勢では、メルセデスベンツ、フォルクスワーゲン、クライスラー、シボレー、現代などの自動車メーカーが出展している。

このほか、三菱電機、パナソニック、サムスンなどもコンセプトカーを自社ブースに出していた。もちろん、世界にはここに出展していない自動車メーカーも多数あるわけで、CES にとってはこの分野の展示が欠かせないのと同じで、カメラメーカーのすべてがCES に出展しないところがあるが、やはりカメラの存在が欠かせないのは同じで、その縮図のような感じがした。

出展されている技術内容をざっと見ると、基本的には将来に向けたコンセプトカーが



蛍光色のブルゾンには赤色のLED ランプが埋め込まれていて注意を促す。これもイノベーション



サムスン GearVR。ギャラクシーノート4 をセットしてVR（仮想現実）ヘッド化するためのゴーグルもイノベーション

多く、燃料電池、自動ブレーキ、自動運転に関する技術が多い。

■ Innovation Awards Showcase

CES の会場で“2015 BEST OF INNOVATION AWARD”というのが発表されているので、何がイノベーションなのかのぞいてみた。

場所はTech West Sands Expo の3D プリンターなどが展示されているのと同じフロアだが、周りは小さなブースに囲われているが、かなり大きなスペースを割いて、出入り口には係員を配した特別なコーナーとして設けられていた。

会場では、i³ (It Is Innovation) と書かれたA4 判100 ページを超える冊子が配られており、その表紙にはInnovator としてGoPro のFounder、CEO、Chairman のNicolas Woodman がにっこりとほほ笑んでいる。

そして2015 年のイノベーションはというと冊子の中6 ページにもわたってある細か



Sands Expoのエントランス

な表を数えてみると、カテゴリー別に何と418品目もあるのには驚いた。

写真関係はと探してみると、Digital Imagingの分野でソニーα7Sが1台だけ選定されていた。選定理由は、フルフレームのレンズ交換式ミラーレスカメラで高感度を設定でき、ノイズが低く、手持ちで4Kビデオが撮影できるのが、プロのフォトグラファー、ビデオグラファー（初めて見た単語だ）向きだというのだ。いずれにしても、この418品目の中にGoProのHeroのような商品は含まれるのだろうか。

■ PMA と CES の関係 ■

今年のPMAとCESの関係は、Presented by PMAという形で“Digital Imaging/Photography”というタイトルになり、これは実際どのような形で展開されるのか、現地に来てみなくてはわからなかった。

そのDigital Imaging/Photographyのコーナーの近くにPMAは事務局、会議室などをもち、従来と同様にCESが開催される前の1月4日と5日に、DIMA(Digital Imaging Marketing Association)、PSPA(Professional School Photographers Association)、SPA(Sports Photographers Association)、AIE(Association of Imaging Executives)などが、それぞれ独自のセミナーと基調講演を行っている。

また従来からの写真関連の業者は、わずかに額縁屋さんとカップなどに写真をプリントする業者とローデンストック、日本のフィルターメーカーをそれぞれ1社ずつ見つ



PMA メンバーのための部屋



PMA コーナーで見つけた額縁屋さん



PMA コーナーで見つけたマグカップ写真のプリント屋さん

けることができたが、かつてPMAが単独で開いたショーのときに、多数存在した写真用品メーカーはどこに行ったのだろうか。なおPMAはここ2年ほどは、ロサンゼルスでBig Photo Showという名目で5月に単独ショーを開いていたが、今年は開かないというのだ。

いずれにしても、日本がそうであるように、アメリカでもカメラ・写真屋さんの立ち位置は大きく変わらざるを得ないのも現実で、それに伴いさまざまな歪みが露呈して



PMA コーナーで見つけた日本のフィルターを扱うブース



PMA コーナーで見つけたYASHICA ブランドをもつ、シンガポールの会社



PMA コーナーで見つけたローデンストックのブース

きたのではないだろうか。

やはり写真分野が縮小したという見方もあるが、デジタル化によって、技術が拡散し、産業、業界が形になって見えなくなってきたのも事実だと考える。

とはいっても、今回のPMAの開催にあたっては、プラチナキーノートスポンサーにはサムスンが、プラチナスポンサーにコダッ



オリンパスはCESに展示ブースはだしていないが、PMAコーナーの近くに誰でも使えるミーティングルームを提供していた

クアラリス、ゴールドスポンサーにキヤノン、ヒューレットパカード、セッションスポンサーに富士フイルムとパナソニックなどが名を連ねているが、これが業界内の商品シェアにはあまり関係ないところが注目で、時代の移り変わりを感じさせる。

CES そのものは、事務局CEAの発表によると、2015年は1月6～9日までの4日間でCES史上最大の展示規模の220万フィートで開催され、出展社は3,600社、内375社は新規出展社だったという。入場者数は前年の16万人を上回る17万人に上り、海外からは45,000人以上が訪れたという。

いずれにしても、CESは次年2016年1月6日から9日までに163,000人の来訪者を予定して、開催が決定している。

そしてCESにとっては、これからもコンシューマー製品の最たる分野として、カメラメーカーの参加は大いに期待されている部分ではないかと考えるが、PMAとしてCESとどのような関係でいくのか、これからの進展は大いに気になるところである。